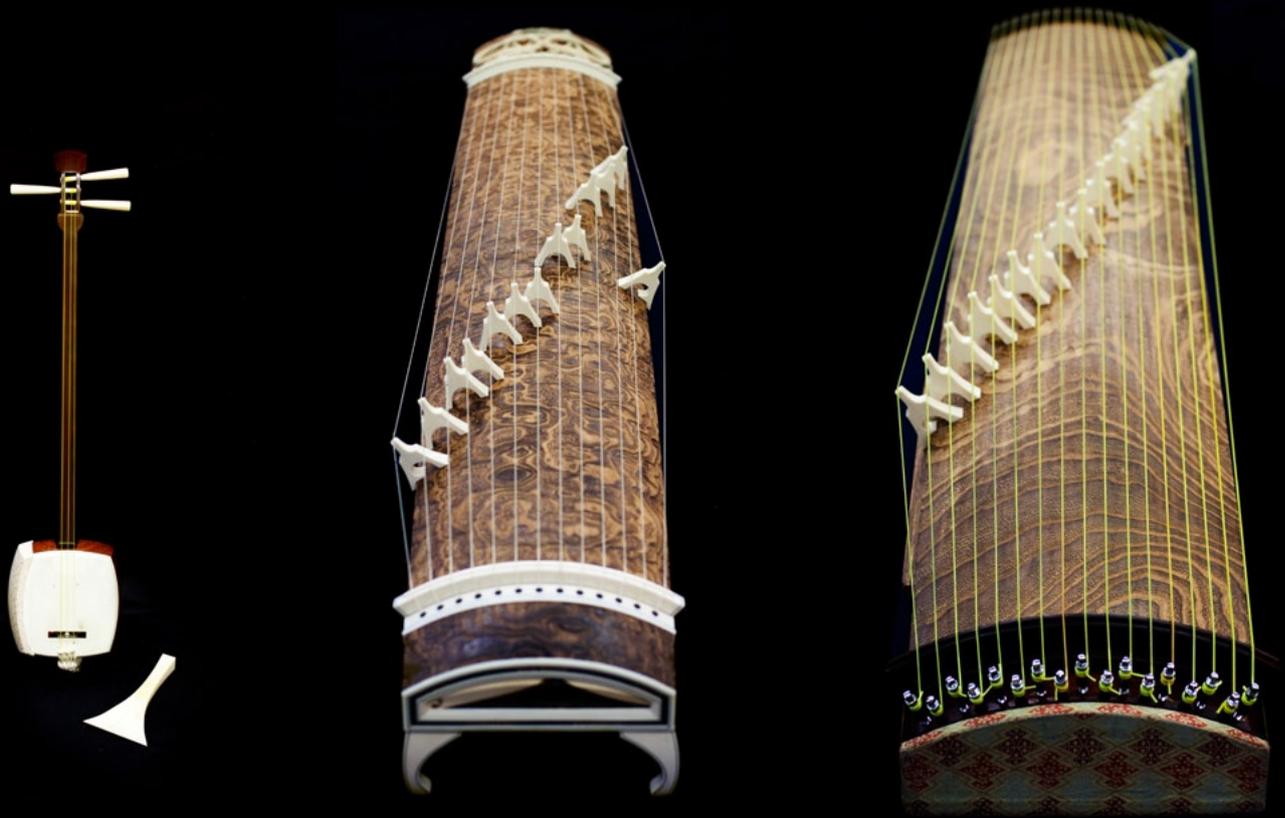


<http://www.seihahogaku-kai.or.jp>



第二十一号 「正派ホームページ」

メルマガnoichi21号。今月のテーマは『正派ホームページ』。

正派邦楽会はホームページを開設しました。

まだまだ手探り状態のようですが、少しずつ改善して、素敵なホームページになりますように。

私たちメルマガnoichi編集部もその想いを込めて、

サポートさせて頂ければと思っております。

パソコンという便利なものができて、情報伝達の数も広さも同時性も、初代、二代が仕事をしてきた時代と全く変わりました。

新しいことに取り組む姿勢や、その時代のあるべき姿を意識する気持ちを、私たちはいつも応援していきたいと思っています。

そういう意味でも、今回のホームページの誕生は、大変喜ばしく、素晴らしいことだと思います。

正派創立百周年のこの年。この「今」をホームページでも活かして、未来へ繋いでいけたらいいですね。

皆で力を合わせて参りましょう。

中島靖子
中島一子

去る二月上旬、正派邦楽会のホームページが完成しました。創始百周年記念イヤーのこのタイミングとなったのは、特に計った訳でもなく、たまたまです。

百年の歳月を掛けて大きく繁栄を遂げた正派の歴史は、これからも続きがあります。十年先、二十年先を見据え、これからは時代のスピードに対応していかなければいけません。こちらにも負けじとスピード感を持って臨もうと思えます。今回のホームページ開設は、その第一歩が踏み出せたのかなと感じる今日この頃です。

制作チームが動き出したのは昨年の秋。正派会館ロビーに集まったプログラマー、グラフィックデザイナー、副家元・中島一子、正派事務局から二名、音楽院教務主任、私を加えた七名が、まず忌憚のない意見を交わし合いました。

今の時代に適合したHPとはなにか。正派の特徴を映し出すHPに、全国の会員にとつて中央の情報を素早く伝えるHPを：などなど、まずは必要な意見を集約し、出来るだけ反映させることにこだわって制作してもらいました。

無論、これはあくまで原型です。これから信じられないくらいに、全く変わってしまう可能性もあります。また、それが許されるのがホームページなのであり、インターネットの世界なのだと私は思っています。とにかく、常日頃、改善すること、発信すること、この二点を強く心がけたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

昨今、私の頭の中を色々なアイデアが流れ星のように出ては消え、出ては消えていきます。しかし時に、何事も恐れず、まずはやってみるというやり方も、案外いいものかもしれません。

奥田雅楽之一

邦楽の方角

グラフィックデザイナー (http://www.1988.jp) みやはらたかお
奥田雅楽之一さんと知り合ってからもう十年以上になります。そもそものはじまりは能でした。その当時、グラフィック・デザインを担当していた能のチラシやパンフレットが横浜能楽堂の方の目にとまり、仕事の依頼をいただきました。その方の部下だった熊谷さんという女性が、ある日、奥田雅楽之一さんを事務所連れ来てくれました。

なぜ紹介してくれたのかと聞くと「なんとなく合うと思ったんです」と熊谷さんは言っていました。確かにそうでした。少し内向的でありながら、何か言いたそうな目が、自分の若いころに似ているなと感じました。その時は美術や音楽についてとりとめもない話をしました。最近ほどの業界も縦割りになってしまつて、他の業界の人と話をする機会は少なく、ましてや音楽の業界の人と美術の話をする機会はあまりありません。音楽畑にも奥田雅楽之一さんのように美術の話をしたがる人がいたことは印象的でした。奥田雅楽之一さんはその後、人前に出る機会が増えるにいたがい、変わつて行きました。華のようなものが身に付いてきました。四十代、五十代、六十代とワインのように熟成されて行つたら、どんな演奏を聴かせてくれるのか、どんな曲を作るようになるのか、今から楽しみであります。

邦楽はいつも向こうからやってきます。わたしの場合はそうでした。お前は手伝うべきだと誰かに言われているような気さえます。能のお手伝いをし、奥田雅楽之一さんと一緒にホームページやメルマガを作るのは自然な流れだったのかも知れません。その流れの中、正派邦楽会のホームページのデザインも担当することとなりました。まだまだ改善すべき点は多々ありますが、皆様の意見を聴きながら、少しでも正派のイメージアップになればと思います。

戦後、日本人は西洋の音楽も普通に聴くようになり、ラジオにテレビにゲームにカラオケに、趣味の選択肢は何十

↓次ページにつづく

倍にもなっています。昔のように邦楽を楽しむ人が減ってしまったとしても何の不思議もありませんが、能はどうして七百年も生き残ったのかと考えてみます。そこには深い「普遍性」があったからとしか言いようがありません。親子や男女の思いは今も昔も変わりません。この世とあの世に近い能の世界は、現代人にとっては新鮮です。科学が進歩したこの世の中にあっても、能はいまだに解けない普遍的な問題を提起しているのだと思います。おこがましいようですが、わたしがデザインする上で一番大事にしているのも「普遍性」です。花火師のようにその時だけ、その年だけの広告や流行も良いものですが、何十年たっても古くならないものはさらに魅力的です。茨城のおばさんでもアフリカの子どもでも感動してくれるものが作れたらもっと素敵です。その「普遍性」を追い求めながら、十数年前に無知なまま能のお仕事を始めた時と同じく、客観的になれるという門外漢の強みを生かして、僥越ながらこれからも邦楽の振興のお手伝いができたらと考えています。



一言・ひなまつり 1

邦楽囃子方 望月 太左衛

〽五人囃子のお友だち〽

「皆様、こんにちは。望月太左衛でございます。十二月発行のメルマガ『noichi』第十九号「食も芸術」私のランチ③」記事に参加させていただいたことをきっかけに今回からメルマガにも参加させていただく運びとなりました。

箏曲をなさっている皆様に、私が専門としている「囃子」について少しづつ知っていただくように「一言」ずつ書いてまいります。囃子にも目を、耳を向けていただき、邦楽を囃子という箏曲とは別の角度からも楽しんでいただけるように努力いたします。よろしくお願いいたします。

三月三日はひなまつり！雛壇の一番上には、お内裏様とお雛様。二段目は、三人官女。そして、その下に並びますのが、五人囃子です。向かって右から、扇を持った「謡」。その隣は「笛」、細い横笛を口に当てています。五人囃子真ん中が「小鼓」、右肩の上に乗せて構えています。その隣が「大鼓」、左膝の上に乗せています。小鼓より少し大きい鼓です。一番左側が「太鼓」で、二本の撥で打ちます。

小鼓、大鼓、太鼓、この打楽器三つを「三拍子」、それに笛が加わり、「四拍子」と言いますへヨンビョウウシではないです。この四拍子に謡が加わった音楽とは、「能楽」です。五人囃子の音楽は、現在の能楽の音楽構成と同じです。

私は小さい時、五人囃子をみていて、「なんで三味線がないのだろう？」と、ずーっと思っていました。

た。歌舞伎音楽の中の環境におりましたので、小鼓や大鼓、太鼓、笛とあって、三味線がないことはとても不思議でした。そのちずいぶん自分が大きくなってから五人囃子は能楽と知りました。

実は現在、台東区数ヶ所の幼稚園のひなまつりに「五人囃子」として参加しています。地元・幼稚園のPTAの一員として始めたこの活動は今から二十年ほど前から始まりました。「なんで三味線がないのだろう？」もっと他の楽器もあつたらいいに！」と思う気持ち、今その活動に反映しています。

私たちの五人囃子には、五人囃子のお友だちが必ず参加します。三味線さん、お箏さん、ピアノさん、バイオリンさんなどです。小さかったころから、五人囃子にいろいろな楽器が加わるとにぎやかでいいなという思いを大人になってかなえることができました。

お箏さんのみなさんへ、五人囃子のお友だちになつていただけませんか！ ぜひどうぞ！

インフォメーション！

三月三日（日）午後一時から、東銀座・時事通信ホールにて、「第四回 三番叟まつり」を開催いたします。小鼓初めての方も参加できます。

午前中に、持ち方、打ち方の練習、そして午後の本番の舞台で演奏します！

当日、ロビーにて、稀音家義丸師、義之師所蔵のひな人形、ひな段の展示もあります。

ぜひぜひ御来場、御参加ください。お待ちいたしております！ <http://www.tazae.com/>



Illustration: morimoe

かみさまの四方山話 4

尺八演奏家 神令

「楽屋見舞い」

「楽屋弁当」と同じく演奏会に欠かせないのが、「楽屋見舞い」の数々。持つて行く側は精一杯の心遣いを尽くし、もらう側は感謝の気持ちで迎えるちよつとした、でも大切な気持ちの受け渡しです。食べられるもの、飲めるもの、軽いものから、重いものまで様々です。和紙の封筒に「御祝」と書かれた袋に包まれた、色々な物に都合良く変えられる魔法のような紙も人気がようです（笑）

私自身は、うさぎやのどら焼きが好みなのですが、周りの方に「頂いて嬉しかったもの」を聞いてみると沢山のご意見が出てきました。ご参考までに列記しますと、空也の最中、福砂屋のカステラ、千疋屋のグレープフルーツゼリー、花園万頭、鶴屋吉信のつばらつばら、小川軒のレイズン・ウィッチ、とらやの羊羹、兵庫県加古川市にあるプルニエドボアのプリンか

ケーキ、桃林堂の小鯛焼き、中村屋のあんまかるん、ラ・メゾン・デュ・シヨラのチョココレート、ガトーフエスタハラダのラスクホワイト、やよいのちりめん山椒、e t c . . . 百貨店のバイヤーさんのように、音楽家の皆さんは商品知識に明るい事…。反対に、お気持ちは有り難いものの、貰って困ってしまったものでは、ホールケーキ、地方巡業公演での移動日に大きな花束などなど。飛行機の移動日に瓶や金属は確かに困ります。私も某国の公演でのお土産で、主催者様から数キロの金属の記念品を頂き、帰りに空港で手荷物重量をオーバーしないように、出演者一同で重さをシェアするのに空港ロビーでスーツケースを広げて四苦八苦しました。

とにもかくにも、「選んで楽しい楽屋見舞い」「貰って嬉しい楽屋見舞い」のような素敵な気遣いが今日も楽屋に彩りを添えてくれていることと思います。

!!! Present !!!

メルマガ《noichi》から、日頃の感謝の気持ちを込めて、読者のみなさんにプレゼント。



今月号『かみさまの四方山話』に登場した、鶴屋吉信のつばらつばらを、抽選で二名様に、オフィス雅楽之一限定イラスト葉書付きで、プレゼントさせていただきます。ご応募方法は、メルマガ《noichi》編集部宛〈mailmagazine@utanoichi.jp〉に、ご住所、お名前をご明記の上、2月中にメールをご送信下さいませ。尚、当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

第52回 正派音楽院卒業演奏会

日時：3月14日（木） 午後6時開演 入場無料

ところ：ルーテル市ヶ谷センターホール（新宿区市谷砂土原1-1）

プログラム

1. 八段の調／八橋検校
2. 子守唄変奏曲／平井康三郎
3. 壺越／山本邦山
4. 青柳／石川勾当
5. 手事／宮城道雄
6. 箏四重奏曲／長沢勝俊

助演：川村泰山先生・下田玲子先生（出演順）

